

羅針盤



第 24 号

令和7年12月8日(月)

◆ 「努力の壺（つぼ）」

「最後のもうひと頑張り」が大事です。生徒の皆さんには、日頃から自分の夢や目標の実現のために、弛まぬ努力を積み重ねてきているかと思います。3年生は、今週の11日から進路懇談が始まります。いよいよ自分自身の進路獲得のための明確な道筋を決めるべき時がやってきたということです。このような時だからこそ、今一度「最後のもうひと頑張り」が必要となってくるはずです。更なる努力を積み重ねていくために、「努力の壺（つぼ）」というお話を紹介します。人は誰もが、「成績を上げたい」とか「部活動で試合に勝ちたい」などの目標を立てたときに、目には見えない「努力の壺」というものが渡されるそうです。壺の大きさは人によって、あるいは、目標によって、それぞれ大きさが違います。実現することが難しい目標であれば、壺は大きくなり、それほど難しくない目標であれば、壺は小さいそうです。そして、自分が立てた目標を達成させるためには、努力という水を貯めていく必要があります。成績を上げたいのであれば「毎日1時間勉強する」ことであったり、部活動で試合に勝ちたいのであれば「しっかりと練習に励む」などの努力を重ねる具体的な行動とともに少しずつではありますが、水が溜まっていきます。努力を繰り返し続けていくことで、壺には努力という水が満たされて、いつかその水が溢れ出すときがやってきます。壺が努力で満たされて溢れ出たとき、つまりは、これまでの努力が報われて、自分の目標が達成されたことを意味しています。努力という水が溢れ出すまでには、気の遠くなるような時間を要する場合があるかもしれません。目標を達成するためには、弛まぬ努力を続けることが必要不可欠なことです。ただし、この壺には大きな問題があります。この壺には、どれだけ努力という水が溜まっているかということを、自分の目で見て確かめることができないということです。だからこそ、自分はこれまでに休むこともなく努力を続けてきたのに、なぜ自分が求めている結果がいつまでも出ないのだろうと、思ってしまうことがあるかもしれませんということです。そんな時は、もしかしたら、後もう少し努力を重ねてみれば、壺が努力の水で一杯になるのかもしれません。それこそが、とても大事な「最後のひと頑張り」というものではないでしょうか。諦めてしまって、努力を止めてしまえば、これまでに積み重ねてきた努力が全て無駄になってしまいます。諦めてはいけません。これまでに積み重ねてきた努力というものは、間違いなくこの「努力の壺」の中に溜まっているはずです。諦めずに努力を積み重ねれば、いつか必ず水が溢れ出す日がやってくることを信じて疑わないことがとても大事なことです。また、自分自身の頑張りを他人と比べてはいけません。壺の大きさが違うのと同じで、当たり前の話ではありますが、他人と同じだけ努力

をしたからといって同じ成果ができるといったようなことはあり得ないことです。同じだけの努力をしても、壺に溜まる水の量が違うことを理解しておかなければいけません。そして、何よりも、自分に厳しくあり続けることで、「どうせ頑張っても無理だ」などといったように諦めてしまうのではなく、頑張り続けている自分の努力を疑うことなく、決して諦めないという強い気持ちを持ち続けることが、大切なことです。皆さんの持つ「努力の壺」は、いつか必ず溢れ出すときがやってきます。「継続は力なり」です。努力を積み重ねた先には、「成長した自分」ときっと出会えるはずです。

